

# 東京都美術館 ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS



東京都美術館  
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No. 466

# start

輝くあの人とartの素敵な出発点

Interview

## 宮本亞門

MIYAMOTO Amon



ミュージカルからオペラ、歌舞伎とジャンルを超えた演出家として国内外で活躍する宮本亞門さん。イサム・ノグチによる舞台美術の美しさに魅了されたことをきっかけに、その生き方に深くふれ、舞台『iSAMU』も手掛けた宮本さんにノグチの魅力についてうかがいました。

MIYAMOTO Amon—an internationally active director who traverses genres from musicals to opera and kabuki. Fascinated by the beauty of Isamu Noguchi's stage sets, Miyamoto directed the play *iSAMU* exploring the sculptor's approach to life. We asked him about Noguchi's appeal.

### イサム・ノグチからの問いかけ 「君は何をなしたのか？」

ニューヨークでダンス修業をしていた20代前半の頃、ダンススクールの廊下に飾られていた舞台美術に一瞬で目を奪われました。装飾をすべて排除した中にある力強さと美しさ。日本人の父親、アメリカ人の母親をもつイサム・ノグチという芸術家によるものだと知り、それ以来、ノグチを意識するようになりました。

彼が晩年まで彫刻制作を続けていた香川県高松市牟礼に「イサム・ノグチ庭園美術館」ができてからは、私の祖父が香川県出身という縁もあって、たびたび足を運ぶようになり、彼の作品と生き方にどんどん魅了されていきました。

あるときそこで、写真の彼と眼が合ったんです。私を睨んでいるかのような力強い表情で、「君は何をなしたのか？」と問われた気がしました。無心で何かを追求し、本気で生きていた男の眼がそこにあったのです。彼の人生をもっと知りたい、ノグチが遺したものを人々の記憶にとどめたいという思いにかられました。彼は何を思いながら作品を創っていたのか、どう生きたのかを知るため、資料を読み込み、彼と関わった人に会いに行き、長い準備期間を経て2013年に舞台「iSAMU」を手掛けました。

### 荒れた場所に作品を置くことで その土地も人も変えていける

ノグチは彫刻、庭園、照明、建築と、ジャンルを超えて作品を創り続けましたが、ランドスケープとして自然と一体化したものや、雨ざらしになる戸外や街角にポン、と置かれた作品もあります。その中でも彼は、荒れた土地、悲しい出来事があった場所にこそ、作品を置こう

混沌とした現代にこそみてほしい  
直観と未来を信じ、  
闘い続けたイサム・ノグチの作品を

In today's chaotic world, we can learn from Isamu Noguchi, who worked tirelessly, believing in his intuition and the future.





**宮本亞門**（みやもと・あもん）  
演出家。1958年、東京都生まれ。ダンサー、振付師を経て1987年にミュージカル『アイ・ガット・マーマン』で演出家デビュー。2004年、東洋人初の演出家としてオンブロードウェイで上演したミュージカル『太平洋序曲』がトニー賞4部門でのノミネートを果たす。ミュージカル、オペラ、歌舞伎などジャンルを超える演出家として国内外で幅広く活躍。2021年3月、葛飾北斎の晩年期を現代の視点で切り取った舞台『画狂人 北斎』（新国立劇場、長野、大阪、岡山、香川、石川）の再演や、近著『心を軽くなるメッセージ集』上を向いて生きる』（幻冬社）ほか。

としました。そうすることでその地のエネルギーをひっくり返し、そこに暮らす人々の心を変え、その土地自体を変化させようとしていたのです。

そんな彼の創作活動の原点は、戦争をはさみ、2つの祖国の間で激動の人生を歩んだことに他なりません。戦争中、アメリカの日本人収容所に行けばアメリカ側のスパイだと疎ま

れ、戦後は広島平和記念公園のモニュメント制作に指名されていたのに、「アメリカ人の血が流れている」という理由で突然の棄却。今なお世界中でさまざまな差別や断絶がありますが、ノグチはそんな断絶を誰よりも経験したからこそ、どう乗り越えていくか、どう融合させられるかを考えながら創作活動をしていたように思います。

ノグチの言葉で印象的なのが、「地球を彫刻する」という表現です。好き勝手に地球に手を加えるという意味ではありません。国境を越えた地球そのものに愛情があるからこそ、作品を通すことによってその場所を強く意識できるようにしたのです。そこには「この作品を通して地球を、自然を見てごらん」という、温かい視線を感じます。その想いが根底にあったからこそ地球を、大地を彫刻していったのではないのでしょうか。

彼の作品と生き方にふれたことは、私の人生に大きな影響をもたらしました。自分を軸に物事を考え、小さな空間であくせく悩むこともありましたが、視点を変えれば全然違うものになること、マクロ的な視点で物事を見る大切さも教わり、ものの見方が楽になりました。

### 何を思いながら作品を創ったのか 想像をふくらませて鑑賞する楽しみ

中学生の頃は美術史研究者になりたかったくらい、美術館は私にとって自分自身でいられる、心落ち着く場所です。彫刻でも絵画でも、まずタイトルは見ずに、作者が何を思いながら創ったのか、そのとき作者の中で何が起きていたのかを想像しながらみるのが好きです。

この春開催される「イサム・ノグチ 発見の道」は、国内外の作品が何点も集結するとあって、ワクワクしています。ノグチの代表作の一つでもある《黒い太陽》は、とても印象深い作品。太陽のコロナのごとく、ゴーッと熱いものが全部石になって固まっていく凄みのようなものを感じ、初めてみたときは何分も立ち尽くしたことを覚えています。

こんな混沌とした時代だからこそ、自分の直観と未来を信じ、壮大な世界観でモノを創り続けたノグチの作品を皆さんにもぜひみていただきたいと思います。

## start

I first encountered the work of Isamu Noguchi, who had a Japanese father and American mother, in my early twenties when studying dance in New York. Afterwards, I grew more and more fascinated by his work and approach to life.

One time, seeing his photo portrait, I felt him question me with his eyes—"What have you accomplished?" In 2013, I directed the play *ISAMU* wanting to know his thoughts and how he created his works.

Noguchi placed his works in desolate locations. He felt he could awaken the energy of the land, this way, and change the thinking of residents and even the land itself. Such work arose from the discrimination he suffered in the interval between two homelands that were at war. Discrimination and exclusionary practices still now abound in the world, and I think Noguchi, based on his own experience of discrimination, created art with thoughts of how to overcome such attitudes and heal divisions.

Noguchi sculpted the earth with a heart of warmth: "Look at the earth and nature through this work." He taught me that things appear entirely different when we change our perspective, and the importance of seeing things from a macro perspective.

When I visit an art museum, I try to imagine what the artist thought and experienced at the time, without looking at the artwork title.

"Isamu Noguchi: Ways of Discovery" will be held this spring. Noguchi created tirelessly, believing in his intuition and the future, based on a grand world vision.



### イサム・ノグチ 発見の道

Isamu Noguchi: Ways of Discovery

会期

2021年4月24日(土)～8月29日(日)

特設ウェブサイト

<https://isamunoguchi.exhibit.jp/>

展覧会の舞台裏

# Creating Exhibitions

2020年は、新型コロナウイルス感染症によって異例づくめの年になってしまいました。世界中でほとんどの美術館が閉館や大幅な予定の変更を余儀なくされています。舞台裏で、スケジュールの再調整を重ねながら決定した2021年度の展覧会をご紹介しながら、ウィズ・コロナ時代に開催する美術展の意味について改めて考えます。

The year 2020 brought the world unprecedented challenges due to the Covid-19 pandemic. Art museums around the globe have been forced to suspend or limit their operations. This time, we look behind the scenes at two exhibitions we have postponed until fiscal 2021 and consider the meaning of holding art exhibitions in today's "with-corona" era.

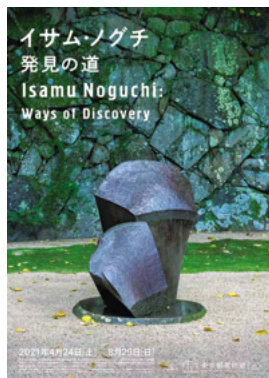
## 展覧会と幸福(ウェル・ビーイング) —ウィズ・コロナ時代の展覧会

On Well-being —Exhibitions in the "With-corona" Era

### 2021年度の展覧会予定

長い準備期間を経て、2020年度に開催を予定していた特別展「伊サム・ノグチ 発見の道」(以下、「伊サム・ノグチ」展)と企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」(以下、「Walls & Bridges」展)は、海外作品輸送の目途が立たず、やむなく延期になりました。4月からの「伊サム・ノグチ」展、7月からの「Walls & Bridges」展では、リスク管理を踏まえながら、また十分な感染防止対策を取ったうえで開催します。

その後、秋には特別展「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」、冬には特別展「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展(仮称)」を予定しています。この他、6月に「都美セレクション グループ展 2021」、11月に「上野アーティストプロジェクト2021〈美術〉(仮称)」



「コレクション展(美術)(仮称)」を開催します。

### 「伊サム・ノグチ」展と「Walls & Bridges」展

伊サム・ノグチ(1904~1988年)は、世界的に有名な20世紀を代表する日米ハーフの抽象彫刻家です。今回の「伊サム・ノグチ」展は、その展示空間の実現に徹底的にこだわった企画です。もちろん、一つ一つの作品も見応え十分ですが、複数の彫刻が交響的空間をつくり出すさまは写真や映像や言葉ではとても伝えきれません。それを、みる人が直接に身体全体で感じ取る体験をしてほしいと願って計画された展覧会です。

当館の企画展示室は、LB階、1階、2階の三層構造になっており、各々相当の広さがあります。今回はそれにほとんど仕切りを設けず、広い空間の中で、ノグチのブロンズ彫刻、金属彫刻、光の彫刻「あかり」、そして石の彫刻が相互に作用しあっ

てそれぞれのフロアでユニークかつ複雑な空間をつくり上げます。

担当者は、長年かけてニューヨークのイサム・ノグチ財団や国内外の美術館や機関が所蔵するノグチの彫刻を調査し、精密な縮尺模型をつかって、緊張感のある空間を構築しようと日々吟味してきました。この「空間」の直接的経験が、本展の最大のみどころ(感じどころ)ですが、初期から晩期までのノグチ彫刻の精髓が込められることや、牟礼(香川県高松市)のイサム・ノグチ庭園美術館の彫刻が東京でまとめて展示されることも特筆されるべきでしょう。

「Walls & Bridges」展は、5人のつくり手それぞれの人生と創作について時間をかけて丁寧に調査し取材してつくり上げた企画展です。すべて物故作家になってしまいましたが、東勝吉、増山たづ子、シルヴィア・ミニオ=パルウエルロ・保田、ズビニェク・セカル、ジョナス・メカスの5人は、「アーティスト」と呼ぶにはあまりにもユニークな人生と制作の動機の持ち主です。いわゆる職業的作家でないのはもちろん、名声への欲望、知的な文脈、てらい、けれん味なども無縁のつくり手たちです。彼らにはやむにやまれぬ表現への情熱があり、そこには人間に対する愛や大切な記憶が存在しています。自らを取り巻く「障壁」を、新たな展望を可能にする「橋」へと変えるこの情熱が本展のみどころであり、ぜひ会場でじかに感じ取っていただきたいと思えます。本展では、人間が生きて「よすが(手がかりとして信じているもの)」としての、アート本来の魅力に直接ふれていただきたいと思えます。

### 展覧会と幸福(ウェル・ビーイング)

ウェル・ビーイング(well-being)とは、精神的、身体的、社会的に「良い状態」にあることを意味します。「幸福」と訳されることが多いのですが、ハピネス(happiness)が一時的なものでありうるのとは違って、持続性があり、他者との比較を必要としません。それは自分にしか分からない無償の経験です。

イサム・ノグチも、「Walls & Bridges」展の5人の作家も、アートを通して、幸福(ウェル・ビーイング)に至ることを目指していたのではないかと考えています。なぜなら、彼らの作品の鑑賞によって私たち自身が人間と人間とのつながりを実感し、その体験の中で幸福

(ウェル・ビーイング)を味わうことができると直感するからです。ウィズ・コロナ時代に開催する美術展の意義は、一人でも多くの人が自らそう感じられるかけがえのない展示空間を実現することにあるのではないかと改めて思っています。展覧会の鑑賞体験は、厳しい現実の下でも人間が等しく味わえる幸福(ウェル・ビーイング)の一つであると考えます。

(東京都美術館 学芸担当課長 山村仁志)



The global pandemic has caused the two exhibitions "Isamu Noguchi: Ways of Discovery" and "Walls & Bridges - Touching the World, Living the World" to be postponed until 2021. The Noguchi exhibition will open in April of 2021 and "Walls & Bridges" will open in July, in both cases with adequate measures in place to prevent infections. Presumably Isamu Noguchi promoted well-being through his art as do the five artists of "Walls & Bridges." This we can know because, when viewing their artworks, we feel the warmth of connection with others and directly experience a sense of well-being. While giving priority to the health of visitors and safety of the artworks, we look forward to presenting two exhibitions that offer hope and strength for living in these difficult times.

(YAMAMURA Hitoshi, Chief Curator)

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

# Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、新しいスタイルで実施している「Museum Start あいうえの」の活動をご紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at new kinds of activities implemented as part of "Museum Start iUeno."

ファミリー・プログラム

## 「上野へGO!」

Family program "Go to Ueno!"



「Museum Start あいうえの」では、2020年度の取り組みとして、2020年8月よりファミリー・プログラム、学校プログラム、ダイバーシティ・プログラムを実施してきました。ここでは、年間を通じてオンラインとリアルを組み合わせた、新しい形のファミリー・プログラム「上野へGO!」を詳しくご紹介します。

As an initiative of fiscal 2020, "Museum Start iUeno" is offering new family and diversity programs as of August. Here, we explain a new kind of family program, "Go to Ueno!" combining year-long online and in-person activities.

### 「Museum Start あいうえの」\*1とは?

What is "Museum Start iUeno"?

上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子どもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援。子どもと大人が共に学びあえる環境を創造する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」です。

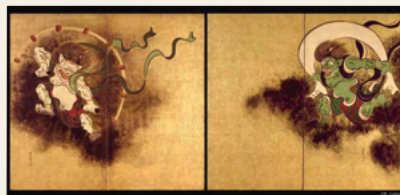
Under the name "Museum Start iUeno," Ueno Park's 9 cultural facilities are working together to support children in their "museum debut." This "Learning Design Project" is aimed at creating an environment where children and adults can learn together.

### おうちとミュージアムでの学びを組み合わせ「アートへの出会い」を実現!

"Encounters with art" by learning at home and at the museum!

「Museum Start あいうえの」では、「すべてのこどもにミュージアム体験を!」をミッションに、ミュージアムにある「ホンモノ」を活用したアクティブ・ラーニングの実現を目指し、こどもたちが文化に触れて遊ぶ中で、自然と学びが生まれる「探求型の学び」を提案しています。2020年度は、コロナ禍でもこうした学びを実現するため、新しいスタイルに挑戦し、さまざまなプログラムを実施しました。

ファミリー・プログラム「上野へGO!」は、ウェブ会議システムを使用してオンラインで作品鑑賞をする「ステップ1」と、実際にミュージアムに出かける「ステップ2」の2段階のプログラムです。



オンラインでの作品鑑賞の様子(《風神雷神図屏風》、尾形光琳筆、18世紀、重要文化財、東京国立博物館所蔵)

Scene of online art appreciation  
(photo source: ColBase <https://colbase.nich.go.jp/>)



当館での冒険ノート  
づくりの様子

At the museum, making  
an adventure notebook

「ステップ1」では、オンラインで作品画像をみんなで見つくりみます。この体験を通して「実際のミュージアムで本物を見てみたい!」という気持ちを作ることを大切にしています。全員で挨拶した後、ウェブ会議システムの機能を使って少人数のグループにこどもたちが分かれます。とびらプロジェクト\*2で活動するアート・コミュニケータ(とびラー)がそのグループに2名ずつ入り、2つの作品をみながらこどもたちの発見や気づきを聞いていきます。最初は緊張気味のこどもたちもとびラーの導きで絵をみながら自由に意見を出し合っていきます。

「ステップ2」は、それぞれのファミリーが上野公園の文化施設を選んで出かけ、本物の作品と出会う日です。当館に集合したこどもたちはオリジナルのスターターキット\*3を受け取り、今日からミュージアムの「リサーチャー(作品をよくみて調べる人)になろう!」と呼びかけられます。自分の目で観察し考えるきっかけとなる「指令書」が渡され、ミュージアムでの冒険の始まりです。

指令書には例えば「あおをさがせ!」と書いてあり、それぞれの行き先で展示物の中からさまざまな「あお」を探してきます。戻ってきたら、どんな青がどんなところにあったかを「冒険ノート」にまとめ公式WEBサイト\*4にアップします。とびラーたちはこどもたちそれぞれのそばに寄り添い「どんなことを見つけてきた?」と問いかける聞き役になり、発見や気づきを言葉にするサポート

をしました。

オンラインで本物の作品に出会う期待感を高めた後で、実際に本物の作品を鑑賞して言葉にする。この一連の流れを通じて、オンラインと実際の場所に行く2つの方法を組み合わせる「ブレンデッド・ラーニング」と呼ばれる学びをデザインしました。今後も新しい探求型の学びを提案し、こどもたちのミュージアム・デビューを応援する取り組みを続けて参ります。

"Giving museum experiences to every child!" is the mission of "Museum Start iUeno." To this end, "Museum Start iUeno" utilizes genuine artworks to promote children's active learning, and proposes methods of explorative learning arising naturally through contact with culture while children are at play. In fiscal 2020, new kinds of programs were implemented to provide such learning amid the Covid-19 pandemic.

The family program "Go to Ueno!" is an example. Here, learning activities unfolding in two stages were implemented—"Step 1," using a web conferencing system to view artworks online and enhance children's expectations about encountering works, and "Step 2," where children visit the museum in-person to appreciate artworks, and express their experience in words. This activity combining two approaches—going online and going to the actual place—is called "blended learning." For children's "museum debut," we will steadily propose new methods of explorative learning, hereafter.



実際に投稿された冒険ノート(指令書: あおをさがせ、学年: 小学4年生、場所: 東京国立博物館)

Uploading the adventure notebook (directive: "Find the color blue"; 4th-year elementary school children at Tokyo National Museum)

\*1 <https://museum-start.jp/>

\*2 <https://tobira-project.info/>

\*3 <https://museum-start.jp/startpack>

\*4 <https://museum-start.jp/book>

## 公募団体・学校教育展

東京都美術館は、年間約250団体の展覧会が開催される「公募展のふるさと」です。美術団体や学校教育機関などが作る新しい作品との出会いの場をさまざまなトピックでご紹介します。

The Tokyo Metropolitan Art Museum is "the home of the public entry exhibition."  
Each year, some 250 groups hold exhibitions here. Visitors can enjoy encounters with new works by art groups and school education institutions, presented under a wide range of topics.

## 展覧会をつくる喜びの場 — 公募展示室とギャラリーを借りるには

The joy of creating art exhibitions — About borrowing the Citizen's Galleries and Galleries A, B & C



使用前の公募展示室内 A Citizen's Gallery before use

東京都美術館では、講堂やスタジオを多くの方にご利用いただいておりますが、実は公募展示室やギャラリーといった展示施設も貸出対象であることはご存じでしょうか。大型の展覧会が開催される企画展示室は、主に報道機関等との共催による特別展で使用されますが、公募展示室とギャ

ラリーは、企画展などの館事業のほか、皆さまの作品発表の場として利用者を募集しています。

現在、公募展示室やギャラリーの募集の枠は三つあります。

一つ目は、「公募団体展」です。公募展示室とギャラリーの貸し出しのほとんどは、

ここで募集された公募団体によって使用されています。一口に公募団体と言っても規模や作品のジャンルなどさまざまですが、募集対象となるのは、都内もしくは全国規模で美術作品の公募を主催していること、運営規定や収支決算が明確であることなどの要件を満たした団体です。公募団体から提出された申請書類は厳正に審査され、審査結果に基づいたグループ順に、利用できる期間や場所を決めています。現在、令和4年度までの募集は終了していますが、令和5年度の単年度の募集を令和3年度に予定しています。

二つ目は、「学校教育展」です。卒業制作展を開催する芸術系の大学だけではなく、都内の教育委員会や芸術系の高校といった、学生の作品を発表する学校教育機関を募集しています。

三つ目は、館事業の「都美セレクショングループ展」です。ギャラリーの空間を生かした展覧会を開催するグループを募集しています。3グループ程度が審査により選抜され、毎年6月頃にさまざまなジャンルの作品が発表されています。



ギャラリー入口からの風景[「第22回 雪梁舎フレンツェ賞展」公益財団法人雪梁舎美術館(2020年10月開催)]

Scene from the gallery entrance (Setsuryosha Firenze Prize Exhibition "Setsuryosha Museum of Art")

いずれも個人でのご利用はできませんが、各募集内容の要件を満たしている場合、公募展示室やギャラリーを利用できるチャンスがあります。募集状況は当館のウェブサイトですべて随時更新していますので、ご興味がありましたら是非ご覧ください。

(東京都美術館 交流係 遠山樹里)



施設貸出のご案内  
(公募展示室・ギャラリー)

At Tokyo Metropolitan Art Museum, not only the Auditorium and Studio but also the Citizen's Galleries and Galleries A, B & C are in fact available for borrowing. While the Exhibition Room is reserved for special exhibitions, the Citizen's Galleries and Galleries A, B & C accept applications for use as exhibition venues for projects by non-museum groups. Currently, there are three formats for accepting applications for the Citizen's Galleries and Galleries A, B & C. One is the "Public Entry Exhibition" format which takes applications from art groups that fulfill certain requirements. Application documents submitted by art groups are strictly

screened, and the period and area of use is determined on the basis of the screening. Currently, applications are no longer being taken for fiscal 2021 and 2022, but the museum is scheduled to accept applications for 2023 in 2021. The second format is the "School Education Exhibition," which accepts applications from educational institutions wishing to display student artworks. The third format is the "Group Show of Contemporary Artists," a museum project accepting proposals for exhibitions designed for specific gallery spaces. Details related to applications are always updated on the museum's website. (TOYAMA Juri, Creative Connections Section)

美術情報室は、図書・図録・雑誌などを閲覧できるライブラリー。  
アーカイブズでは、館の歩みに関する資料を収集・整理・保存・公開しています。

A library open for perusal of reference books, catalogues, and magazines.  
The Archives collect, preserve, and display materials documenting the museum's progress.

## 美術情報室ではセルフガイドの収集に力を入れています

Collecting Self-Guide Leaflets—a mission of the Library and Archives



所蔵しているセルフガイドの一例

A self-guide leaflet in the collection.

Do you know what a self-guide leaflet is? Many museums produce self-guide leaflets to help visitors deepen their art viewing enjoyment. As a viewing aid, the leaflets go beyond commentary to offer quiz-based content and intriguing questions that motivate visitors to actively view and question what is depicted instead of simply staring blankly at artworks. Many self-guide leaflets are geared in content to elementary and junior high school students, but self-guide leaflets are also created

突然ですがセルフガイドをご存じですか？セルフガイドとは、作品鑑賞の楽しさを味わってもらうために、多くの美術館・博物館が発行している印刷物です。単なる作品解説にとどまらず、クイズ形式や質問形式にすることで、漫然と眺めるのではなく、作品をよく見て、考えることを手助けしてくれます。内容的に小・中学生等を対象としたものが多いですが、大人向けのものも作られています。

美術情報室では2014年からこのセルフガイドの収集に力を入れています。現在では900冊以上のセルフガイドを収集し、蔵書の柱のひとつとなりました。なお、収集したセルフガイドは、図書や雑誌のように単独の分類として登録されているため、蔵書検索で簡単に検索・閲覧することができます。美術情報室にお越しの際は、ぜひお手に取ってご覧ください。

(東京都美術館 学芸員 高城靖之)

for adults.

The Library and Archives is actively collecting self-guide leaflets issued since 2014. Currently, with over 900 collected, the leaflets are becoming a pillar of the The Library and Archives's collection. Self-guide leaflets have their own category like books and magazines, which makes them easy to find using the collection search function. Please take one in hand on your next visit to the Library and Archives.

(TAKASHIRO Yasuyuki, Assistant Curator)



美術情報室  
蔵書検索

# TOPICS

Archives  
アーカイブズ

東京都美術館の歩みを紹介するアーカイブズ資料展示。  
今年度は「旧館を知る」と題し、1926年に開館した  
当時の建物に関する写真、図面、模型などを展示しました。

The Archives Exhibition explores the history of the Tokyo Metropolitan Art Museum. Its theme this year was "Remembering the Tokyo Metropolitan Art Museum's Original Building." Displayed were photographs, drawings, and models related to the original building as it existed in 1926 when the museum first opened.



### 2020年度 アーカイブズ資料展示

## 旧館を知る

Archives Exhibition 2020  
Remembering the Tokyo Metropolitan Art Museum's  
Original Building

東京都美術館では毎年、当館所蔵のアーカイブズ資料展示を行っています。今年度は、10月6日から12月6日にかけて、私たちが「旧館」と呼ぶ開館当時の建物をテーマに展示を実施しました。

北九州出身の実業家、佐藤慶太郎の寄付により建設された東京府美術館（現在の東京都美術館）の建物は、岡田信一郎が設計した列柱と大階段を特徴とする西洋古典様式により建築されました。建物の中心には、天窓から自然光が注ぐ、吹き抜けの大きな彫刻陳列室が設けられました。建物はその後、2度にわたる増改築を経て、1975年に新館（現在の建物）が建設されたことにより、その役目を終えました。

会場では、旧館時代から使用している展示

ケースを活用し、写真や図面などを展示しました。展示をご覧になり、かつて旧館を訪れたときの思い出をお話くださったお客さまもいらっしゃいました。上野の地に誕生した日本最初の公立美術館の姿にそれぞれが思いをはせる機会となれば何よりの喜びです。

(東京都美術館 学芸員 小林明子)

The Tokyo Metropolitan Art Museum annually holds an exhibition of archive materials from its collection. In 2020, the exhibition was held from October 6 to December 6 with a focus on the Original Museum Building housing the museum when it opened. The "Tokyo Prefectural Art Museum" (today's Tokyo Metropolitan Art Museum) was constructed on the basis of a donation by the Kyushu industrialist, SATO Keitaro. Architect OKADA Shinichiro's design for the building featured distinctive pillars and a grand staircase in the European classicist style. Central to the design was a Sculpture Hall—a large void space with a high ceiling, filled with natural light spilling from skylights. The building was twice extended and renovated before being replaced by the present New Museum Building constructed in 1975.

In the venue this time, a display case from the original building, currently still in use, was utilized to display photographs, drawings, and so on. On seeing the exhibition, some viewers spoke to us of their memories of visiting the museum when it was still in the original building. Hopefully, the exhibition moved visitors to reflect on the days when Japan's first public art museum opened here in Ueno.

(KOBAYASHI Akiko, Associate Curator)

江戸の玄むす 店主

## 砂金泰人 さん

Proprietor, Edo no Genmusu  
ISAGO Yasuhito

下町の風情を残しつつ、最先端の店も軒を連ねる上野界限。今回は、地元住民の台所ともいえるおむすび屋の店主が上野公園や上野の町の魅力を紹介します。

The Ueno area features many trendy shops while retaining the mood of Tokyo's old downtown quarter. This time, a neighborhood "omusubi" rice ball shop proprietor introduces us to the charms of Ueno Park and its surroundings.



## 上野で花見を楽しむなら穴場の不忍池へ 風格ある弁天堂で癒しのひとときを

Cherry blossoms amid the quietude of Shinobazu Pond and a peaceful moment at dignified Bentendo temple

もともと私の実家は米屋を営んでおり、このおむすび屋に米を卸していた業者だったので、20年前、そのおむすび屋が後継者を探していると聞いて手を挙げたのが私です。

「玄」という文字には専門家、本職などの意味があることから、米にかけては玄人くろうとでしたので、「米屋ならではの美味しいおむすびを提供したい」という思いを込めて、この名前をつけました。おすすめは玄米の塩むすび、野沢菜むす

び、昆布を全体に混ぜ込んだ昆布おむすびも早い時間から売り切れるほど人気です。

米と水加減にもこだわりますが、ひと粒でも米が乾くことのないよう、包み込むように海苔で巻くのがうちの特長。常連さんは「しっかり弾力があっていい」、「具が多めで嬉しい」と言ってくださいますね。毎朝のように買っていかれる美術館の職員さん、長年ひいきにくださるお客さんも多く、近隣にお勤めの方、ご近所さんに支

えられている地域密着の店です。

実家もこの界限なので、おむすび屋を引き継ぐ前から上野一帯は私の大切な「庭」でした。小さい頃はJR上野駅の北側にある両大師橋から上野公園に向かい、寛永寺で墓参りをし、最後に上野動物園に連れていってもらったのが一連のコースでしたが、今は自分の子どもを連れてそのコースを回ったり、国立科学博物館などに連れていったりもしています。また、私と妻の共通の趣味がエジプトなどの古代文明や考古学関連なので、その手の特別展が上野の博物館等で開催されるときには、妻と2人、音声ガイドも借りて、じっくりと解説を聴きながら展覧会を楽しんだりしています。

上野で皆さんにぜひ見ていただきたいのが、「下谷神社大祭」です。JR上野駅浅草口から徒歩5分ほど、浅草通り沿いにある朱色の大鳥居が目印の、都内で最も古い“お稲荷様”として知られる下谷神社ですが、千年以上続く祭りはとにかく華やか。本社神輿は屋根に金色の鳳凰が羽を広げ、約3メートルもの高さがあり、遠方から神輿ファンが駆けつけるほど風格のある大神輿です。担ぎ手によって激しく上下左右に揺すられ、大勢の見物人に見守られながら上野駅前やアメ横の中まで突き進んでいく様は圧巻の迫力です。私も長年担がせてもらっています。2年に一度の本社神輿渡御は、昨年はコロ

ナ禍で中止となり今年に延期され、開催が待ち遠しいですが楽しみます。

下谷神社のお祭りは5月上旬の開催ですが、この町はいつ訪れても魅力があります。アメ横に建ち並ぶ店は時代とともに移り変わりましたが、今も昔も活気にあふれ、その一方で数分も歩けば、私たちの憩いの場でもある不忍池が静かに広がっています。蓮の花で覆いつくされる夏の水面も素敵ですが、春の桜並木もそれは見事で、上野公園よりは混雑が少ないため、落ち着いて花見が楽しめます。池の中央付近にたたずむ弁天堂は風情有り、都会の喧騒を忘れるくらい穏やかな時間が一帯には流れています。雑多で賑やかなアメ横と安らぎの不忍池、その両方を皆さんに楽しんでいただきたいですね。



不忍池の中央にたたずむ弁天堂（2019年撮影）

Bentendo temple at the heart of Shinobazu Pond

My family home was a rice shop. Twenty years ago, I took over the management of this omusubi shop I previously wholesaled rice to. As a rice expert, I want to offer the delicious omusubi one expects from a rice shop, and our shop name reflects this desire. Our omusubi is distinguished by its Koshihikari rice from Sado Island wrapped, package-like, in nori (seaweed laver). We are a community-based shop supported by local residents and office workers.

I often visited Ueno Park and the Zoo as a child, and today, I take my own children to these same places. When special exhibitions are held in Ueno related to archeology—my and my wife's hobby—we go together to enjoy the exhibits while listening to the earphone guide.

The Shitaya Shrine Festival, the earliest summer festival in Tokyo's old Shitamachi area, is worth experiencing one time. Our company's portable shrine, some three meters high and topped by a golden phoenix with wings spread, stands out prominently. When transported through Ueno streets while vigorously shaken up and down by the carriers, the portable shrine displays overwhelming power! Please come see it one time. Ameyoko market street always bustles with vitality, like in olden days. On the other hand, a short walk takes you to the quietude of Shinobazu Pond. The cherry trees here are splendid, and revelers are fewer than in Ueno Park, so you can easily relax and enjoy the flowers. Please enjoy both, the boisterous Ameyoko and quiet Shinobazu Pond.



朝倉文夫によるブロンズ像《生誕》。不忍池のほとりにある台東区立下町風俗資料館の横に2020年7月に再設置されました。1964年のオリンピック東京大会を契機に上野恩賜公園入口前の噴水塔のシンボルとして設置された後、2001年に地下駐車場の整備に伴い撤去され、その後、台東区立朝倉彫塑館で保管されていました。

朝倉文夫(1883~1964年)は近代日本を代表する彫刻家。《生誕》は、戦後日本の再生を釈迦の誕生のポーズに重ねて制作したと言われており、1946年10月に東京都美術館で開催された第2回日本美術展覧会(日展)に出品されました。東京都美術館の生みの親である佐藤慶太郎の胸像(1926年作)も朝倉によるもの。当館中央棟1階の「佐藤慶太郎記念 アートラウンジ」に常設展示していますので、いつでもご覧いただけます。

(東京都美術館 広報担当係長 山崎真理子)



朝倉文夫《生誕》 ASAKURA Fumio, *Birth*  
提供：台東区

*Birth*, a bronze statue by ASAKURA Fumio (1883-1964), was re-installed next to the Shitamachi Museum in July 2020. ASAKURA was a leading sculptor of modern Japan. When creating *Birth*, it is said, he sought to evoke the postwar revitalization of Japan in the posture of the newborn Buddha. Also by ASAKURA—a bust of the Tokyo Metropolitan Art Museum's founding father, SATO Keitaro (created: 1926), on permanent display at the museum. (YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

## 東京都美術館 ニュース No.466

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日 2021年3月31日  
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館  
企画・編集 東京都美術館 広報担当  
デザイン 株式会社ファントムグラフィックス  
翻訳 アムスタッツ コミュニケーションズ  
印刷・製本 株式会社ルナテック

©Tokyo Metropolitan Art Museum

東京都美術館  
〒110-0007  
東京都台東区上野公園8-36  
Tel 03-3823-6921  
Fax 03-3823-6920

公式サイト  
<https://www.tobikan.jp>

Twitter  
tobikan\_jp  
tobikan\_en

Facebook  
TokyoMetropolitanArtMuseum

### 表紙の 写真

イサム・ノグチ《無題》1987年 イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク)  
(公益財団法人イサム・ノグチ日本財団に永久貸与)

*Untitled*, 1987, The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum, New York  
(Whereabouts: The Isamu Noguchi Foundation of Japan)

©2021 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS,NY/JASPAR,Tokyo E3713 Photo: SAITO Sadamu